○議　長（深沢達也君）　　休憩前に引き続き会議を開きます。

　次に、ポートランドに学ぶグリーンシティのまちづくりとこれからのコミュニティデザインについて、13番笹岡ゆうこ君。

（１３番　笹岡ゆうこ子君　登壇）（拍手）

○１３番（笹岡ゆうこ君）　　13番笹岡ゆうこです。今回は、ポートランドに学ぶグリーンシティのまちづくりとこれからのコミュニティデザインについてといった題名で質問させていただきます。

　今回はちょっと明るい話をしたいなと思っております。

今、時代の転換期であると感じています。経済格差は広がり、全ての世代で希望が見えにくい世の中で、特に若い世代の価値観が大きく変化している時期であると捉えております。代々伝わる家業から大企業の終身雇用型の会社制度となって、核家族化も進みました。このころは全員が同じベクトルを持って競争して、右肩上がりの経済をつくっていった社会でありました。そして、家計が豊かになり、会社も発展し、国全体の経済力が上がっていったといった時代です。

その後、バブルが崩壊し、現在では就労者の約４割が非正規雇用と言われ、富の再分配がうまく機能しているかどうかといったところの問題もあります。そして、新自由主義や自己責任論の中、人々は社会への帰属が揺らぐようになり、焦燥感、不安感が蔓延していると感じます。

　今はベンチャー企業も躍進し、起業家も次々と生まれる個の時代となりました。女性の社会進出も進み、子育てしながら仕事をする女性が飛躍的にふえました。男女ともに働き方改革の推進は急務です。自治体は、子どもを取り巻く環境の整備、また、子育て世代を支える待機児対策や子育て世代の孤立対策などに追われています。

また、オックスフォード大学によると、今後10年から20年後には約半分の仕事はコンピューターに取られるとされ、日本においても学力重視の詰め込み型ではなく、本当の意味で生きる力を支える教育が重要視されていると言われています。

世界的にも大量消費・大量生産の時代から、持続可能な社会を願う時代に明確にシフトしていると感じます。**物質的な豊かさよりも、精神的・倫理的な充足感を求め、他者とのつながりの中でそれぞれの生き方が問われていると感じます**。今後のまちづくりにおいては、この質と多様性を重視する新しい時代の潮目を読んだコミュニティデザインが必要であると思います。**サステーナブルなまちで独立した個が自由で緩やかに結びつきながら、それぞれのアプローチで地域貢献ができる、そんな彩りやストーリーのあるまちづくりを目指すべきだと考えています。**

　今後の本市のブランディングとして、ポートランドを参考にしてはいかがかと提案いたします。ポートランドは、今世界で一番住みたいまちと注目され、移住する人たちが多く、地域の活力がとてもあるまちです。緑、水、エコ、そして徒歩20分圏内のコミュニティ、自治・創業精神が特徴とも言われております。本市もグリーンシティの概念をより一層強め、「生活の質が重視されるまち」、「文化的背景を感じることができるまち」、「環境に優しいまち」、「挑戦と生産ができるまち」を提案し、質問いたします。

　１番、今までのことについて質問いたします。**コミュニティセンターを代表とした既存のコミュニティを深化させることについて**。

1971年、武蔵野市コミュニティ構想は、東京都シビルミニマム計画を市町村レベル、市レベルで具体化した革新自治体のコミュニティ政策の第一号として評価されております。ことし、武蔵野市市民活動促進計画の改定計画が策定されました。これによりますと、地域コミュニティにおける新たな活動の展開、武蔵野プレイス市民活動支援活動の充実、学生団体、ＮＰＯ法人などの変化を踏まえ、計画後期に向けた本市の市民活動促進・支援のあり方の方向性が示されております。

　そこで質問いたします。１番、武蔵野市市民活動促進基本計画の改定計画において、多様化・複雑化する公共課題の解決のために連携と協働の地域社会の実現を目指すとあります。本市が考えるコミュニティセンターの課題と今後のあり方について見解を伺います。

　２番目、コミュニティ未来塾、地域フォーラムは、多様な主体での場づくりが進んでいるのか、評価と課題、今後の展望を伺います。

　３番、武蔵野市市民活動促進基本計画改定計画において、コーディネート機能の強化が記載されてあります。確かに、藻谷浩介氏も『和の国富論』で、**コンテンツがあって立地条件がよければ事業が成り立ったのが日本の20世紀後半であるとすれば、コンテンツも立地条件も、それを生かす経営人材次第だというのが21世紀だろう**と指摘しております。現況におけるコーディネート力の課題と今後の展望を伺います。

　大きな２番目、武蔵野市のブランディングについて、「**生活の質が高いまち、文化的背景を感じるまち」について**質問します。

　本市は、23区外でありながら、豊かな財政を背景に、水、緑、活発な市民活動、老舗と新しい個性的なお店の共存、ライブハウスやアニメなど、武蔵野市の文化を感じさせるまちだと考えます。世界中から住みたいまちと評価されているオレゴン州のポートランドは、サステーナブル、コンパクトシティ、リベラル、回遊性があるまち、市民活動が活発なまち、環境先進都市と、武蔵野市と共通しているところが多いなと感じました。

　そこで質問します。１番、本市は長い間住みたいまちナンバーワンの称号を受けてきました。どのようなところが評価されてきたとお考えか、見解を伺います。

　２番目、福祉施策においては、より一層個を多様な主体で支える施策を推進し、小さな単位でのコミュニティを推奨していくべきだと感じますが、子ども分野、また高齢者分野の福祉について、今後の展望を伺います。

　３番目、本市が培ってきた文化はどのようなものだと捉え、それらを次世代にどのように継承していくと考えるか、見解を伺います。

　４番目、若い世代や子どもたち、子育て中の母親のサステーナブルな社会に対する意識は非常に高まっていると感じます。消費を含めた人間活動そのものが、環境配慮型で持続可能な意味合いを重視する流れになっていると感じます。環境基本計画や生物多様性基本方針でも触れられていますが、市としても、環境施策を積極的に進めてきたことに加えて、今までの活発な環境保護活動と、これは市民活動ですが、これに加え、若い人の新しい価値観がありますので、**本市はまちを挙げてエシカルな行動や文化を武蔵野らしさとしてもっと推進していくべきだと考えます**が、見解を伺います。

　大きな３番目、新しい武蔵野市のブランディングについて、「環境に優しいまち」を提案します。環境問題に対する本市の意識は、平成11年に環境基本条例を制定して以降、行政、市民、事業者ともに高いと感じています。平成27年には第四期武蔵野市環境基本計画が策定され、これまでのエコシティからスマートシティむさしのの実現を目指すとあります。

　質問します。１番、環境問題に対する新クリーンセンターの啓発の力に期待しておりますが、新クリーンセンターのこれからの役割について、子どもたちや市内外へ向けた啓発なども含めた見解を伺います。

　２番目、ポートランドを形容する言葉の一つとしてファーム・トゥ・テーブルがあります。市内産の野菜や市内の農園といったものを応援する活動としてどのようなものがあるか伺います。

　３番目、ことし**コピス吉祥寺**は、私が自然に帰っていく、生命力と新鮮さを回復させる、豊かな暮らし方を広めていくをコンセプトに、ＧＲＥＥＮＩＮＧをテーマにリニューアルしました。施設の外観にも多く緑が使われるようになり、環境配慮型のお店もふえ、ウッドデッキではバスキングｉｎ吉祥寺としてフリーの生演奏が行われています。グリーンシティを象徴するコミュニティの拠点としてとても注目しておりますが、市の評価はいかがでしょうか。

　５番目、今後のまちづくりに当たっては、**オープンスペースや景観、エコロジーの視点を重視していくべきだ**と考えています。ポートランドでは、地権者や住民の多い地区をエコディストリクトという名前で再開発したと言われています。

エコディストリクトとは、山崎満広さんが書いた『ポートランド　世界で一番住みたい街をつくる』によると、1990年からポートランドで使われ始めた環境都市開発の手法で、それぞれを地区に分けて、その１つずつをそれぞれ１つの環境システムと捉えて施策を行っていくとあります。その地区内で建物、オープンスペース、街路、交通網などを融通し合い、エネルギーや水を節約し、都市環境の改善につなげていくということです。これは、ＰＤＣというポートランド市開発局、これは行政からも議会からも独立したものだということですが、ディベロッパー、行政、都市計画家、建築家、環境エンジニア、ランドスケープデザイナーなどがまず集まって１つのチームとなってコンセプトをつくるそうです。**今後は武蔵野市において景観保全と産業振興、住宅開発とのバランスをサステーナブルな視点を重視してバランスを保っていくべきだと考えます**が、見解を伺います。また、吉祥寺グランドデザイン改定に当たり、このような方向性を重視していくべきだと考えますが、見解を伺います。

　最後に大きな４番目、新しい武蔵野市のブランディング、「**挑戦と生産ができるまち」について**。自由競争社会が進み、格差が広がりを見せる中で、失敗ができない風潮があると感じます。

一方で、お金以外に価値観を置き、地域貢献もしたいという若い世代のさまざまな挑戦が見られ始めていると感じます。**消費するだけではなく、特性を生かして地域とつながろうとする動きはとても大切であり、今後は世代を問わず、挑戦と生産ができ、それを後押しするまちであってほしいと考えます**。また、今年度、中高生ひろば会議が試行予定であり、それも大変期待しております。

　１番、さまざまな角度から市民の挑戦を支援し、そのプロセスを大切にすることで、新しい地域力になると感じます。鶴岡ナリワイプロジェクトのように、**特に女性の小さな挑戦や創業に注目すべきだと考えます**が、本市の創業支援の現況と今後の展望を伺います。

　２番目、文京区は、文京ソーシャルイノベーション・プラットフォームとして、文京ミライ・カフェ、文京社会起業アクション・ラーニング講座、ファシリテーター養成講座、コーディネーター養成講座、新たな公共プロジェクト会議などを行いました。これにより、区で新しい活動を始める人がふえて、これまで地域で活動してきた人とのつながりも生まれたといいます。本市も新たなコミュニティづくりのアプローチとして参考にしてはいかがでしょうか。

　３番目、地域コミュニティのハブ、新たなコミュニティの拠点として、今後の空き店舗・空き家の利活用にも期待したいと考えています。今年度行われる予定の空き家調査を含め、**空き店舗・空き家の利活用や、リノベーションのまちづくりに対する市の見解を伺います**。

　以上で壇上からの質問とさせていただきます。

○市　長（邑上守正君）　　それでは、笹岡ゆうこ議員の一般質問にお答えしてまいります。ポートランドに学ぶグリーンシティのまちづくりとこれからのコミュニティデザインについてということでございます。

　まず大きな１点目で、コミュニティセンターを代表とした既存のコミュニティを深化させることについて、コミセンの課題と今後のあり方ということでございますが、平成26年のこれからの地域コミュニティ検討委員会の提言では、幾つかの課題を提示されています。

コミュニティづくりの認知と連携の不足、複雑な区域設定、気軽に集まりやすいコミュニティセンターづくり、担い手の固定化や高齢化などが課題として挙げられているところでございますが、この委員会の提言では、これからのコミュニティの実現に向けての方策として、協議の場の実現や新たな参加者や人材の掘り起こし、コミセン機能の充実などが示されており、こうした方策を着実に実施していく必要があろうかというふうに思っております。

また、午前中、他の議員からも御質問をいただいておりますが、コミセンのあり方以前に、やはり武蔵野市はどういうコミュニティ形成をこれから図っていくべきかというのが大前提だと思っております。それを踏まえた上で、コミセンの役割というのが新たに顕在化をされてくるのではないかなというふうに思いますので、**今後、新たな未来形のコミュニティ構想を構築する中で、全体のコミュニティのあり方、そしてコミセンのあり方について深く議論を進めていきたい**というふうに思っています。

　２点目、コミュニティ未来塾、地域フォーラムの評価と課題、今後の展望ということでございますが、検討委員会より、この地域フォーラムの開催について提言をいただき、提言以降、ほぼ全てのコミセンを会場に、数えますと合計で35回開催されているところでございます。成果としては、地域課題の共有化や自主防災組織などの立ち上げにつながったというふうに考えております。

団体に属さない方の参加は現状ではまだ多いとは言えませんが、このような開催を通じてより多くの方が参加していただくことが次の展開につながるのではないかなというふうに思っておりますので、ぜひ今後の開催に当たりましては、多くの方の参加について前向きに工夫をいただけたらというふうに思っています。

　コミュニティ未来塾むさしのについては、昨年度、コミュニティ研究連絡会との共催事業としてスタートし、**40名の参加を得て、講座を２月、３月に開講いたしました**。講座自体はまだスタートしたばかりでございますが、昨年度の受講生同士でその後に同期会的な動きもございまして、新たなグループ活動というのですか、そういう市民活動につながっていくのではないかなというふうに期待をしているところでございます。

また、市民とともに講座をつくり上げていくプレイス自体がコミュニティ未来塾むさしのであると位置づけてございまして、今年度の講座開設に向けて昨年度の受講生も含めて一緒に検討を進めていきたいというふうに考えています。

　３点目で、現況におけるコーディネート力の課題と今後の展望。市民活動促進基本計画改定計画の策定に当たりまして、市民活動推進委員会での検討においてもコーディネート機能の必要性が多く議論され、改定計画につながったところでございます。改定計画では、**コーディネート機能を担う人材に求められる力量については、調整力を基盤として、コミュニケーション力、地域をつなぐ力、創造性、企画力、リスクマネジメント力を掲げているところでございます**。

また、全ての力量を特定の人や組織が備えるということではなくて、複数の人や組織が協力してコーディネート機能を発揮するようなことが重要とされているところでございます。

こうした機能の充実のため、人材の発掘や養成講座などが位置づけられており、現行ではコーディネート機能の発揮の場である地域フォーラムの運営あるいはコミュニティ未来塾むさしのなどの講座開設により、さらに着実にコーディネート機能の強化を進めていきたいというふうに考えています。

　次に、大きなお尋ねの２番目で、武蔵野市のブランディング、「生活の質が高いまち、文化的背景を感じるまち」についてというお尋ねでございますが、まず１点目、本市は長い間、住みたいまちナンバー１の称号を受けてきた、どのようなところが評価されてきたと考えるかということでございますが、住みたいまちという直接的なタイトルにつきましては、これは主に吉祥寺が評価されているのではないかなというふうに思っています。

もちろん武蔵野市も、かつては日経グローカルから、サスティナブル都市全国１位といったようなことも評価いただいておりますし、生活実感値満足度１位、これはネクストからも評価いただくような形で、武蔵野市自体も評価をいただいておりますけれども、住みたいまちというと、これは評価いただいているのは吉祥寺ではないかなというふうに思っております。

　吉祥寺駅から半径400メートルの範囲にさまざまな商業施設が立地をしておりまして、大型店とその間に立地する商店が協調できている、回遊性が豊かで買い回りができる魅力のある商業環境が整っている。そして人気のある中央線沿線で、新宿、立川、あるいは京王線を通じて渋谷にも直結をしているといったようなことから、またバス路線も大変多いことから、買い物や交通の利便性が極めてすぐれているというのが評価の一つではないかなというふうに思います。

またあわせて、どのアンケート調査でも登場するのですが、やはり吉祥寺の魅力は井の頭公園ということが多々言われているところでございます。豊かな自然環境、緑が多いという、それが吉祥寺のよいイメージにもつながっているということでございます。またあわせて、**吉祥寺の繁華街がございますが、その背景には良好、良質な住宅地が展開しているということも評価の一つ**ではないかなというふうに思っています。

　またさらに**、多様な文化性、歴史性がある**ということで、歴史性としては、江戸時代の門前町の移転からの歴史を持ち、現在でも、直接的ではございませんが、吉祥寺には寺社等が存在するということから、歴史的な意味合いを感じさせてくれているということもございます。

文化性としては、昔から多くの文化人が住まわれ、さまざまな文化活動の積み重ねがあり、**ジャズ、アニメあるいはサブカルチャーといった吉祥寺文化**が登場してきたというところでございます。このような歴史性、文化性が吉祥寺の魅力としては極めて大きいものというふうに考えています。このように吉祥寺の魅力の要素はさまざまでございますが、背景には、これまで先人の皆様方が築き上げてきたまちづくりの基盤があるというふうに考えているところでございます。

　次に②として、小さな単位でのコミュニティを推奨していくべきだと感じるが、子ども分野、高齢者分野の福祉について今後の展望をということでございます。

　まず子ども分野においては、子育て家庭を地域全体で支え、支援することが求められているというふうに考えています。行政や教育、保育、子育て支援施設、市民・地域団体、ＮＰＯ、民間企業などさまざまな主体がそれぞれの役割を担い、連携協力して、子どもの健全な育成、子育て家庭の支援を行うため、子どもプランに示されている施策を推進していくというところでございます。

施策のあり方としては、特に乳幼児期の子どもと保護者に対しては、０１２３施設や児童館、すくすく泉、コミセン親子ひろばなど、お互いに顔がわかる関係性ができる支援を行っているところでございますが、ゼロ歳から18歳までの子どもを対象に考えると、必ずしも小さな単位という考え方ではなくて、前述した**さまざまな主体がさまざまな場面でかかわり、支援の多層化により充実を図ることが必要である**、このように考えております。

　高齢者分野では、従来、介護保険サービス利用者を中心としてケアマネジャーやサービス提供事業者等の支援者で定期的に支援方針を確認する**サービス担当者会議**、あるいは事例を通じた多職種協働による個別の利用者支援を目的とした**個別地域ケア会議**など、**制度的に個を多様な主体で支えるための仕組みがあるところ**でございます。

特に個別地域ケア会議では、例えば認知症のひとり暮らし高齢者が地域で生活し続けることをどのように支援していくかを、医療・介護の多職種と、民生児童委員や地域の自治会の方などによって話し合い、インフォーマルサービスの利用や住民同士の日常的な声かけにつながったケースもあるというところでございます。また、昨年７月より開始したいきいきサロンも、より身近な地域にある通いの場として介護予防に寄与するとともに、連絡なく欠席の場合には、在宅介護地域包括支援センターと連携して安否確認を行うなど、地域で高齢者の安心を支える事業となっている、このように認識をしてございます。

　安心面では、住宅系事業者やサービス提供事業者、警察、消防などと見守り・孤立防止ネットワークを構築し、地域の高齢者などの異変を早期に察知し、孤立を防いでおるところでございます。

今後、高齢化に伴い、ひとり暮らしや認知症などの高齢者がふえていくことから、さらに既存の取り組みを強化し、まちぐるみの支え合いを進めていきたいというふうに考えております。

　３点目として、本市が培ってきた文化をどのようなものと捉え、それらを次世代にどのように継承していくと考えるか見解をということでございます。

文化は非常に幅広い分野を含む概念であり、御質問にあった緑の豊かさ、活発な市民活動、住みやすさを感じるまちづくりなど、これまで積み重ねてきた多様な要素が本市の文化の背景にあると考えております。こうした本市の文化の継承については、これまでも個々の施策の中でも進められてきたことではあると認識してございますが、今年度策定に着手いたします文化振興基本方針においても、こうした本市の文化につながるさまざまな要素も洗い出し、吉祥寺、武蔵野市といったこの２枚看板の都市ブランディングの視点からも継承・発展させていくことを考えていきたいというふうに考えています。

　次に４点目、本市はまちを挙げてエシカルな行動や文化を武蔵野らしさとして推進すべきであると考えるが見解をということでございます。本市における武蔵野市らしさとは、一般的な概念として捉えられており、これまで築き上げられた市民自治やまちづくりにおける歴史観など多様な意味で使われることが多い状況でございます。

環境面から見れば、高い市民意識や市民活動を基本としたエシカルな行動や文化は高く求められている部分であり、御指摘のとおり、社会動向の流れや市民意識の高まりも感じているところでございます。

環境基本計画や生物多様性基本方針にもこのような市民意識は反映され、市民が主体的に環境配慮に取り組むこと、あるいは人と自然が調和した都市を目指すことを基本的な考えとして示しており、環境面における重要な要素として捉えているところでございます。

　次に、大きなお尋ねの３番目、武蔵野市のブランディング、環境に優しいまちについてということで、①新クリーンセンターのこれからの役割についてというお尋ねでございます。

御案内のとおり、新クリーンセンターは４月に本格稼働いたしましたが、見学コースではごみ処理の仕組みをわかりやすく解説し、ごみ処理について理解してもらうとともに、環境などについても関心を持ってもらって、ごみ減量や環境に配慮した行動をするきっかけになるよう啓発を行っていきたいというふうに考えております。ことし10月に予定しております環境フェスタは、この新クリーンセンターで行いたいというふうに思っております。また、青空市、これはリサイクルや環境をテーマとしたイベントでございますが、この青空市と同時開催し、それぞれのイベントとしての相乗効果を上げていきたいというふうに考えております。

　新クリーンセンターでは、広く開かれた施設として自由に見学できる見学ルートを常設しておりますが、ぜひ多くの方々に見学をいただきたいというふうに思っています。この見学者コースでは、ロボットのＰｅｐｐｅｒ君が施設の説明をしたり、情報コーナーのモニターではごみの行方のクイズなどができたりしておりまして、子どもを初めとして多くの方々が楽しく学べるような工夫もしているところでございます。

自由見学では、お申し出があればコンシェルジュがわかりやすく丁寧に説明をする対応をしているところでございますし、また、団体見学などを事前にお申し込みいただければ、建設経緯あるいはごみ処理装置について、職員が詳しい説明をさせていただきたいというふうに考えております。

また、新クリーンセンターで導入したごみ発電やガスコージェネレーションについても、エネルギー映像パネルで解説し、クリーンセンターを中心とした低炭素社会への取り組みを来所される市民に紹介し、低炭素社会を考えるきっかけとしていきたいというふうに思っております。東側コミュニティスペースでは、６月11日にエコマルシェを開催する予定としております。ワークショップや見学会を実施しますので、ぜひ御来場いただきたいというふうに考えています。

　そして将来的には、現在検討中のエコプラザで行う啓発事業とも連携を図り、エコプラザと新クリーンセンターの啓発事業を一体的に行うなど、より効果的な事業としていきたいというふうに考えております。新クリーンセンターではごみ処理に関することを中心に啓発を行い、エコプラザではそれを含めて広範な環境に関することも啓発していきたいというふうに考えております。エコプラザにおける啓発については、今後もエコプラザ検討市民会議で議論を進めていただきたいというふうに考えております。

　２点目、市内産野菜や市内の農園を普及・応援する活動としてどのようなものがあるか伺うということでございますが、都市の農地は、新鮮で安全な農産物の供給の場であるだけでなく、災害時の避難場所、良好な緑の景観の形成、子どもや市民への農業体験の提供、さらには生物多様性の場などとして多面的機能への期待が高まっているところでございます。市内産野菜を普及・応援する取り組みとしましては、顔の見える農産物の生産を目指し、生産者と消費者をつなぐフレッシュサラダ作戦や農家見学会の開催、直売所マップの作成のほか、こうのとりベジタブル事業では、新生児の誕生祝いとして市内産野菜引きかえ券の贈呈を実施しており、新鮮で安全な市内産野菜の理解を深めるきっかけづくりになっているというふうに考えています。

　学校給食に地元で生産された農産物を使用することは、小学生の時期から市内産野菜に接し、市内産野菜のファンにもなってもらうとともに、食育の視点からも重要であり、給食・食育振興財団との連携も図り、さらなる利用拡大に努めているところでございます。

　次に③として、コピス吉祥寺は、グリーンシティを形容するコミュニティの拠点として注目しているが、今回の改修に当たってさまざまな取り組みがあったということに対して、市の評価はいかがかということでございます。そもそもコピスという名前自体が、雑木林、そして小さな森といったような意味からスタートをしているところでございますので、今回のリニューアルのコンセプト「ＴＨＩＮＫ　ＣＯＭＭＵＮＩＴＹ！　ＴＨＩＮＫ　ＬＯＣＡＬ！」を掲げてさらに地域コミュニティと固く結びつき、まちのとまり木になるような施設を目指すというところと同時に、緑化するという語源から派生した「ＧＲＥＥＮＩＮＧ」をコミュニケーションワードとしておりまして、生命力と新鮮さを回復させるという意味も持ち合わせた展開というふうに捉えておるところでございます。

コピスでは、心を緑にする、自分にちょっとした余裕をつくる取り組みと位置づけ、吉祥寺を愛し楽しむ人々の生活に寄り添う憩いの空間として、ライフスタイルを提案し、吉祥寺を訪れる全ての方々にほっと一息つける空間づくりを行っていくこととして展開されているもの、このように理解をしているところでございます。

　一方、開発公社では、コピスリニューアルに合わせまして、吉祥寺デッキやペニーレーンへの新たな緑化やベンチ、パラソルなどを設置し、誰でも気軽に休憩などに利用でき、くつろぐことのできる環境整備にも取り組んでいるところでございます。今後も緑豊かな都市の魅力を高めるため、緑化推進などによる環境整備や啓発に努め、吉祥寺のまちのにぎわい創出や商業の活性化に寄与できる施設を目指していく予定としているところでございます。

　市としての評価でございますが、これらのように地域のコミュニティに配慮した施設を目指し、緑化推進や憩いの場となるスペースの提供、地域の方々に配慮した空間づくりを行っていることからも、この取り組みには一定の評価をしているとともに、商業活性化の核として、今後も地域に親しまれ必要とされる施設としての運営を期待しているところでございます。

　次に４点目で、今後のまちづくり当たっては、オープンスペースや景観、エコロジーの視点を重視していくべきだと考えるが、また、環境保全と産業振興、住宅開発のバランスをサステーナブルな視点を重視して保っていくべきだと考えるがということ、また、吉祥寺グランドデザイン改定に当たり、このような方向性を重視していくべきだと考えるが見解をということでございます。

　本市のまちづくりは、都市計画マスタープランに基づき進めておるところでございますが、目指すべき都市像を「環境共生・生活文化創造都市むさしの」といたしまして、市民が限られた地球資源を自覚し、環境と共生する循環型社会を創造するとともに、**自然、歴史、文化を大切にし、豊かな住環境のもとで生活文化が生まれる都市を構築していくこととしているところ**でございます。

また、目指すべき都市像を実現するため、都市の骨格を形成する交通ネットワーク、商業業務機能集積地、緑と水のネットワーク、個性豊かな三駅地域、持続可能な都市の５つの視点で方針を示しているところございます。**提案、御紹介いただきましたポートランドの事例を踏まえ、環境保全と産業振興、住宅開発のバランスをサスティナブルな視点を重視して保っていくことは、都市計画マスタープランでも持続可能な都市として、環境への負荷の低減と自然環境の保全の視点を重視することを示しているとともに、都市を構成する要素のバランスに配慮することは、今後のまちづくりにおいても重視すべきことと考えているところでございます。**

　次に、吉祥寺グランドデザインの改定についてでございますが、策定から10年を迎える吉祥寺グランドデザインについて、平成29年度から30年度の２カ年で改定作業を実施することとしております。策定当時より吉祥寺を取り巻く環境や社会情勢は変化してございまして、今後もさらなる吉祥寺ブランドの高い地位を維持し、魅力あるまちとして成長していくため改定を行うものでございます。改定イメージや手法については現在検討中でございますが、提案いただいた視点なども踏まえ、商業者を含む市民やまちにかかわる多くのステークホルダーによる議論を行い、よりわかりやすいグランドデザインに改定していきたいというふうに考えています。

　次に大きな４点目、武蔵野市のブランディング、挑戦と生産ができるまちについてございます。

　まず１点目、特に女性の小さな挑戦や創業に注目すべきと考えるが、本市の創業支援の現況と今後の展望を伺うということでございます。

**28年度に武蔵野創業サポート施設開設運営支援事業によって市内に４カ所の創業支援施設が開設されたところ**でございます。

飲食業や食品の製造販売が可能となるシェアキッチンや、カフェ併設のコワーキング施設など、それぞれ特徴のある施設であり、いずれも何らかの形で女性の創業を支援する施設内容となっております。

各施設が開設されたのは２月から３月にかけてであり、まだオープン間もない施設でございますが、それぞれ10名から40名程度の登録者や利用者があり、定期的にセミナーや講座、マルシェなどのイベントを開催しているところでございます。今年度は、まずは創業を希望する施設利用者を順調に伸ばし、それぞれの施設の経営が軌道に乗ることを第一に考えているため、市としても施設のＰＲや施設利用者が活躍できる場をふやすための支援に力を入れていきたいと考えています。また、各創業支援施設の相互連携やむさしの創業サポートネットの各機関との連携のあり方についても検討し、施設と施設利用者双方にメリットのある協力関係を構築できるよう支援していきたいと考えております。

　また、この場から多数のなりわいが育っていることとともに、住民が行政の支援に頼らず自前で運営しているユニークな取り組みとして、鶴岡市の鶴岡ナリワイプロジェクトを大変注目しているところでございます。緑町にある創業支援施設であるＭＩＤＯＬＩＮＯ＿が、鶴岡ナリワイプロジェクトの活動を参考にしていると聞いておるところでございます。本市の友好都市である酒田市の市民もこのＭＩＤＯＬＩＮＯ＿にかかわっている活動であるため、今後の展開について注目しているところでございます。

　２点目で、文京区は文京ソーシャルイノベーション・プラットホームといったような展開をされておりますが、本市も新たなコミュニティづくりのアプローチとして参考にしてはいかがかということでございます。文京区のソーシャルイノベーション・プラットフォームについては、同区が平成22年に策定された区の基本構想に掲げた新たな公共の担い手と区との協働を具体化するために25年度から３カ年にわたり実施された新たな公共プロジェクトのことと認識しているところでございます。このプロジェクトでは、担い手の創出・育成、各プロジェクト参加者をふやすための区民へのアプローチ、協働プロセスの重視から区の組織風土の改革や新たな推進体制などの取り組み、対話の場である文京ミライ・カフェ、起業アクション・ラーニング講座、活動ブラッシュアップ講座など、担い手の育成、コーディネーター養成講座などを実施し、新たな担い手を生み出すとともに、コミュニティへの波及効果もあったと聞いているところでございます。町会・自治会を中心とした文京区のコミュニティと、コミュニティ協議会による本市のコミュニティには、基盤などの違いも多いというふうには思いますが、今後のコミュニティづくりのために参考としていきたいというふうに考えています。

　次に３点目でございます。空き店舗・空き家の利活用やリノベーションのまちづくりに対する市の見解をということでございます。地域コミュニティのハブ、新たなコミュニティの拠点として**空き店舗・空き家を利活用していくことは、コミュニティや地域の活性化のためには有効な方法の一つ**であるというふうに考えています。

一方、空き店舗・空き家の利活用やリノベーションについては、**市がかかわる上では、所有者の意向、地域ニーズのほか、耐震などの建物の安全性、建築基準法などの法令遵守の確保などを踏まえる必要があり、コミュニティの拠点や建物用途の変更を伴う活用については、対応すべき事項が多い**というふうに認識してございます。

空き店舗の利活用については、現在行っております創業支援事業により創業する場合は、市内に出店するよう仕組みを検討しているところございます。商店街における空き店舗の状況については、市商店会連合会などと連携し、把握に努めていきたいというふうに考えています。

今年度実施する空き家の実態調査では、所有者の意向調査も行うため、これらの結果も踏まえるとともに、福祉やコミュニティ分野の行政内の連携、関連団体の連携により、空き店舗・空き家の利活用・リノベーションが進められる制度や体制などについても研究を進めていきたいというふうに考えております。

　以上でございます。

○１３番（笹岡ゆうこ君）　　お答えありがとうございました。今回、ポートランドを例にいたしましたが、武蔵野市においては、ポートランドをまねするだけではなくて、武蔵野が今まで培って築き上げてきたものというのが非常にいま一度再評価されるものなのだなと改めて感じました。それは今、市長がお答えくださったものだと思っておりますが、ですので、そこを**今、若い世代も含め再啓発、再評価し、自信を持ってグリーンシティの方向にかじをとっていくべきだ**と考えて今回の質問をつくりました。

　武蔵野市というと、ほかの市民の方とか若い方に聞くと、やはり福祉都市のイメージがあるなというイメージなのですけれども、そこにプラスして、今までやってきてくださった環境の話ですとか、市民活動の活発なことであったりとか、水や緑の環境、井の頭公園の存在とか、そういったものをひっくるめて**そこに加え、そこに住む人のシチズンシップ、市民性を武蔵野市の彩りとして全面的にブランディングしていきたいな**と捉えております。

　今回質問をつくりましたのは、いつも子どものこととかをやるのですけれども、最近思いますのは、子どもに求めるのも大切なのですけれども、それは子どもは大人を見ているなと思いました。柳田國男のこういう言葉があります。

「自立して集団の意思決定に加われる人を育てなさい」と。

**つまりは、夢を持って、勇気を持って、間違ったことは間違っていると言い、きちんとコミュニティに参加し、耳を傾けて話し合って、地域のために挑戦をしていくといった姿を今大人が示していくべきなのではないかなと考えています**。

　そこで質問いたしますが、翻って、子どもを育てる教育の部門ではなくて、大人とか市民を育てるといったことに対して、大きくていいのでどのように考えているのか伺いたいということが１点と、コミュニティセンターの質問をさせていただきましたが、私自身は、コミセンは今まで培ってきたものがあると思いますので、やみくもに否定するのは違うかなと捉えております。その方々のさまざまな努力があっただろうと思っております。

　広原盛明さんという方の『日本型コミュニティ政策』という本がありまして、結構詳しく書かれて、邑上市長のことも書かれているのですけれども、そこのコミセンの課題としてこういったことが指摘されております。

まずは、自主参加、自主企画、自主運営の三原則が、今のコミセンの、さまざまな方が参加するというよりは、運営する方も固定化しているとか担い手が不足しているといったことを生み出しているのではないかということで、例えば自主参加の原則によってコミュニティ協議会が一部参加者だけの固定した組織になりやすいですとか、自主企画の原則によって、お稽古事や教室や講座などに偏ってしまうですとか、自主運営の原則によって、コミュニティ協議会の専用施設化しやすいとか、コミュニティ協議会がコミセンの管理に追われてしまうといった指摘があります。

そこを考えますと、今のコミセンが持つ課題というのは、コミセンが悪いとかというよりは、そもそもその制度が生み出したというか、そういう行動原理だったのではないかなと思いますが、この点に関して、まず御見解を伺いたいと思います。以上２点です。

○市　長（邑上守正君）　　今回、特に一般の成人のほうにも注目をいただいての御質問だと受けとめました。確かに、さまざまな課題を解決するための地域の力というのは必要でございますが、これらの地域の力は、当然のことながら現役世代といったらいいのでしょうか、そういう皆様方の力なくして課題解決はできません。

したがいまして、育てるという言葉もちょっと語弊があるかもしれませんが、**学ぶという取り組みは大いに必要ではないかなというふうに思っております**。地域のさまざまなことを学びながら課題解決に向かっていくということで、いきなり課題解決はできないでしょうから、そういう前提となる学びの場ということを多様な視点で展開する必要があるのではないかなというふうに思っています。

その学びの場として、例えばイベントなんかも一つの学びの場だというふうに思います。そういうイベントを通じてコミュニケーションのとり方というようなことも学べるでしょうし、**多様な切り口で学びの場を地域に展開していくことが今後のコミュニティづくりに大きくヒントになってくるのではないかな**というふうに思っています。

　また、**コミセンの活動につきましても、自主三原則というのが極めてひとり歩きをしている**というふうにも思っております。

この言葉から、とかく私ども市役所側も、余り踏み込んではいけないなというような感じもしがちでございますが、必要な情報を提供し、必要なアドバイスをしていかなければいけないということだというふうに思っています。もちろん、この自主三原則の役割、有意義なこともあったというふうに認識してございますけども、**今後もこの自主三原則を基本としつつ、未来型の原則というか考え方を再整理する必要があるのではないかなというふうに持っています**。

○１３番（笹岡ゆうこ君）　　そのとおりだと思います。今回、５月に配られた市長のタウンミーティングの御殿山コミュニティセンターでの課題が、まさに「多様な市民力をコミュニティに」をテーマにした意見交換、地域の課題を考えるといったもので、すごくおもしろく読ませていただきました。

意外にも、ずっと市民として長年暮らしている方もいれば、若い人が参加をされていて、私たちはいろいろやりたいのですといった声もここにあるのだなと改めて思いました。

　そこで、私がこの一般質問で一番言いたかったことは、今とても変化の渦中にあるのだということです。特に下の世代です。私も含め、私よりもっと下の世代。私は大学生のインターン生を２カ月間定期的に受け入れておりますが、彼女たちの考え方というのは、私たちよりもはるかに自由でとらわれず、地域貢献のほうに目が向いているなと感じています。

　そこで、『リノベーションまちづくり』という本を書いた清水義次先生という方がいるのですけれども、「最近は、生まれながらにパブリックマインド、公共精神を持っているタイプの20代、30代が物すごい勢いでふえている。大企業に入ってやみくもなグローバル競争で消耗するのではなくて、かといって補助金、福祉依存で食わせてもらうわけでもない。地域社会でささやかに自立し、協働しながら楽しく生きようとする若者がふえてきた」と。

**これは20代、30代、その下の世代にとても期待できる一つの流れなのだと思っておりまして、私たちもその考えを認めて、それをプラスにしたコミュニティづくりをしていかなければいけないなと考えております**。

　その中で、先ほど市長はＭＩＤＯＬＩＮＯ＿の創業支援のお話をされましたけれども、私もこの鶴岡の話とか文京区の話もＭＩＤＯＬＩＮＯ＿で伺いました。非常におもしろいなと思いました。昨日さんかくＦＥＳＴＡというのがありまして、井の頭公園の三角広場で非常におもしろい、こんなに子育て世代がいたのだなと思うぐらい子どもたちが集まったフェスタがありました。そこでも地域のおばちゃまたちから若い方も含め、そういったシェアキッチンで自分たちがつくった食材というのを売っていたのです。ここでも**地域で人とお金と物が循環している**というか、すごく希望が見えるなと思いました。

　そういったところで、創業支援に関して伺いたいのですが、そういったシェアキッチン等や、その４つの新しい創業支援施設があるかと思いますが、これというのは、ちょっと要望なのですけれども、創業が何人出たかということではなく、それを**コミュニティづくりの一つとしてプロセスを大事にして評価・応援していっていただきたいと思っています**。

私も、創業が地域の鍵になるというふうにはいろいろなところで言われていたのですけれども、とてもぴんとこなかったのです。

ところが、私の友人、知り合いが、専業主婦なのですけれども、彼女がそういった場所で自分の役割を見つけて、地域にどんどん入っていって、非常に生き生きとしている姿を目の当たりにしまして、あ、こういうことなのだなと思いました。

創業まではいかないかもしれないけれども、**地域に役割とか活躍の場を与えられるということが非常に大事**なのだなと、そこが新しい人を巻き込んで、今まで市民活動をされていた人たち、それは高齢の方も多いかと思いますけれども、そういった方も巻き込んで新しい地域をつくっていくといったものが期待できるなと思いますが、この創業支援施設の支援のプロセスを大事にしてほしいということについてどのような御見解があるか伺いたいと思います。

それでちょっと質問を切ります。

○市　長（邑上守正君）　　最後の質問にお答えをいたします。創業支援につきましては、基本的には創業していただくための支援ということではございますが、**特にＭＩＤＯＬＩＮＯ＿の場合は、グリーンパーク商店街の中にあって、周辺の商業施設の活性化につながるような取り組みも見られるのではないかなということと同時に、コミュニティ拠点でもある**なというふうに思いました。

必ずしも、仕事をしてどうしたら稼げるのかなということを研究するだけではなくて、そこで自分がどのような程度までできるのかということと同時に、それがほかの人にどう評価をしていただけるのかとか、そこも含めて**多様な機能もある**のではないかなというふうに思っております。また、**新たな地域の担い手を育成するような支援にもつながっていくのではないかな**というふうに思っています。

**第一義的には、創業支援ということを支援する施設だというふうに感じておりますけども、そのような多様な付加的な機能もあるということは大いに評価すべきものだというふうに考えているところ**でございます。

○１３番（笹岡ゆうこ君）　　よろしくお願いします。

　最後に、最近のほかの地域の動きをちょっと紹介したいと思います。世田谷では、若い人とか、今までコミュニティに地域の人としてぱっと顔が思い浮かぶ人ではない方、初めて来た方とか、引っ越してきたばかりの方とか、そういった方も含め、世田谷をＤＩＹしようといって、政策実現までもっていけるような話し合いですとか、渋谷も、若い人を集めてシブヤ大学なんてやっています。

そして、コピスにおいては、先ほどグリーンシティという象徴で評価できるのではないかと言いましたが、あそこはファミリー世帯を応援する場所としてすごくおもしろくて、リニューアルにおいて、コピスのウッドデッキで、子どもたち、特に小さい子どもたちに種まきをさせたのです。ハーブだったと思いますが、そういった地域にとても根差そうとしている活動もあると。それと開発公社もそれを後押ししているといったことで、しかも周辺では、今、東急でちょうどオンタイムでエシカルフェアをやっております。

やはりそういったことがあるのだなというのを市も認識して、そっちの方向に誘導というか、応援していけるようなことをやっていただきたいと思います。

　そして、新しいそのコミュニティとしては、１つ申し上げたいのは、やはり**若い人というのはプロジェクトごとに集まる**のだなと思いました。

おもしろそうなプロジェクト、自分ができそうなことに対していろいろな方面から集まってくる。そういうものが特徴だと思っています。これは**アクティブな個**それぞれが自由自在にコミュニティの中で水面下も含め動き回っていて、それでプロジェクトがあって、おもしろそうで、達成感もありそうだし、お互いの承認もできそうだし、集まってくると。ということは、これはそれぞれの小さな社会が、活躍の場が小さくあって、高齢の方のいきいきサロンではないですけれども、**若い人たちもいろいろなところで小さいところで集まっていて、それが大きな構造を生み出すといっているのが、今ちょうど起こっていることだと思います**。

それがコミセンと違うというのは何かというと、私が考えるのは、やはりコミセンは近隣コミュニティの施設であると思います。

これからはコミセン・プラスアルファで市全域をカバーするような市民活動、例えば**地域にとらわれずに、まちにとらわれずに自由に動き回っている個が集まれる場を支援するといったことが大事だと思っています**。

それはやはり武蔵境のプレイスの成功というのもそういったニュアンスがあるからではないかなと私自身は考えておりますので、これからは**緩やかな結びつき**、どこかでつながっているけれども、それぞれが動いて緩やかに結びついていて、それがいろいろ重なっていってプラスアルファで、今まで商店会とかさまざまな商工会とか地域活動で地域に貢献してきてくださった非常に大きな土台がある層と、多層的でもいいのですけれども一緒になって武蔵野市をつくり上げるようなコミュニティデザイン、そのようにコミュニティを捉えていっていただきたいと思います。**それが多様性だったりさまざまな価値観を認め合うまち武蔵野市になれるのではないかと思います**が、見解を伺いたいと思います。これで終わります。

○市　長（邑上守正君）　　さまざまなテーマを掲げたコミュニティというのは今でも現存すると思っています。そして、その人が入りやすいコミュニティに行くというのが一番のコミュニティとの接点につながるというふうに思いますので、そういうかかわり方はぜひ大切にしたいなというふうに思っています。

もちろん、テーマによっては全市域を対象とする、あるいは市域を越えたいろいろなテーマ性を持ったものにもかかわるのではないかなというふうに思いますので、そのような活動につながるような機会の、市が直接その機会をつくるというよりか、それを支援をする、ＰＲをする、紹介をするということになろうかと思っておりますが、そのような支援は必要かというふうに思っております。

　**行く行くは、それらのさまざまな大なり小なりのコミュニティがいろいろな連携を持っていくというのが大きな地域力を増していくことにつながる**のではないかなというふうに思いますので、**それらを総じて今後の新しいコミュニティ構想ということが構築できるかもしれませんので、きょうの御意見を大いにヒントとして受けとめさせていただきたいと思っています。**